



2

【ひろばの風】

今どき、子育て家庭事情
保育学科 中島 紀子



3

【Campus News】

風早レトロまつり
ロープジャンプ大会
学長賞の授与
精神保健福祉援助実習報告会を開催
クリスマス募金のご報告
次期学長・学部長・学科長の選任

4

【ESSAY】

“災害に強い地域づくり”に向けて
—KOBEから MATSUYAMAへ—
人間健康福祉学部 徳田 剛



5

【ゼミナールインタビュー】

人間健康福祉学部
鷹尾 雅裕 ゼミ

【クラブ紹介】

ういんぐず(アカベラコーラス愛好会)
部長 人間健康福祉学部1年
中村 友美さん



カタリナ ひろば

Vol.25 No.2
2013.3

聖カタリナ大学
聖カタリナ大学短期大学部
www.catherine.ac.jp



6

【就職活動レポート】

八木 信幸さん
社会福祉学科 社会福祉専攻
田中 英祐さん
健康福祉マネジメント学科 福祉マネジメント専攻



7

【就職活動レポート】

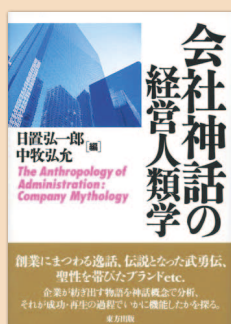
平野 陽子さん
社会福祉学科 介護福祉専攻
川村 美咲さん
健康福祉マネジメント学科 健康スポーツマネジメント専攻
土居 愛美さん
保育学科

8

【教員著書紹介】

『会社神話の経営人類学』

横山 知玄(聖カタリナ大学教授 執筆担当部分:
レストラン三笠会館の創業神話と会社儀礼)
: 東方出版、2012年



8

【教員著書紹介】

『人間性心理学ハンドブック』

坂原 明(聖カタリナ大学教授 執筆担当部分:
福祉と保育における人間性心理学)
: 創元社、2012年



今どき、子育て家庭事情

保育学科 中島 紀子

男女共同参画社会が今どきの社会であるとしても、性別による固定的な役割分担の考えは根強く存在し、その典型的な考えとは子どもを産み育てる役割が女性にあるということであろう。確かに生物学的には女性でなければ子どもは産めないが、実際の子育ての現状は単純ではないし、女性でなければ子どもが育たないとも言いきれない。また、自分の生き方として子どもを育てることだけがその役割とは考えず、「仕事と子育てを両立」することを選択した女性が増加し、その女性たちの労働力は社会的に高く評価されている。

私事であるが、仕事と子育ての両立を選択した一人の母親として、わが子を1歳から保育所に預けていた当時、わが子に申し訳なさを感じていた。しかし、今どきの働く母親はおそらくそうではないだろう。今どきは生活している地域の行政サービスをフルに利用し上手に両立させている。さらには、行政サービスがより充実している市町村へ移り住んでいる。平成になって、国の大きな子育て施策の変化により今どきの子育て家庭は行政や民間の保育サービスを上手に利用することが出来るようになった。

今の日本の子育て家庭は、子どもを幼稚園までは家庭で育てる専業主婦タイプ、産休や育児休業を利用して継続的に共働きで就労するタイプ、そして母親がパート就労しながら経済を支えるタイプの3タイプに分かれている。平成12年には保育所を利用する子どもたちが幼稚園に在籍する子どもたちの数を上回り、いわゆる待機児童が社会問題化した。待機児童の問題は現在も継続しているが、平成25年の今、母親が就労している家庭においては、保育所の空きを待つのではなく、認可外保育施設をうまく利用したり、幼稚園に預ける子育て家庭が増加している。一時は幼稚園数が減少し、保育所が増加傾向にあったが、今は幼稚園教育に保護者の関心が向けられて

いる。今の幼稚園は子育て家庭の、保護者の多様なニーズに対応することができているのかもしれない。

その対応とは、一つに、幼稚園は原則4時間の教育時間を基本としているが、近年の就労母親の増加によって、多くの幼稚園が「預かり保育」を実施していることである。預かり保育とは、通常の教育時間を過ぎても幼稚園が子どもたちを預かるサービスである。中には、保育所の延長保育のように午後7時頃まで預かっている園もある。2009年の調査(ベネッセ)では、全国の私立幼稚園の90%はこのサービスを実施しており、保護者の幼稚園選びの重要な条件の一つとなっている。その他には、就労していても保育所を選択せず幼稚園にわが子を入園させたいと考えている場合である。なぜなら、幼稚園は教育機関であり、教育内容が明確であるからである。もっというなら、保護者の教育ニーズにあっているのである。たとえば、以前は幼稚園が終了した後、個人的にいろいろなお稽古事に通っていたが、今では幼稚園が放課後にお稽古事の教室を開講している。さらに、心理的なものかも知れないが、認定こども園の認可保育所に最初に入園しても、3歳になったら幼稚園の在籍にしたいと希望する保護者がいるそうである。

就学前の子どもの教育・保育は義務教育ではない。しかし、わが国は5歳児人口の96%は幼稚園か保育所に入園する。4歳児も80%以上である。子どもは保護者の生活スタイルによって人生の最初の時期の環境を左右される。いつの時代も大人の事情で子どもは生活している。どの子育て家庭のタイプの子どもが幸福であるとか、幼稚園がいや保育所が良いとか結論は出ない。出るとすれば、今の子どもたちが大人になって家庭を築き、保護者としてわが子の最善の利益をもって判断することができるかどうかではないだろうか。

Campus News

風早レトロまつりへの出店



11月10日(土)に開催された風早レトロまつり(主催:風早レトロタウン活性化委員会、共催:松山市、松山市教育委員会)に、本学も出店の協力をいたしました。

当日は、展示パネル紹介(大学紹介)や、産官学連携事業として本学と愛媛県産業技術研究所と(株)キシモトで共同開発を行った「骨まで食べられる干物」の販売(キシモト製造)や、「カタリナ漬」の販売(カタリナフード工房製造)いたしました。

卒業生が「カタリナ漬」を見て懐かしむ姿も見受けられました。また、本学教員の高木寛之助教が北条地区まちづくり協議会の一員としてアイスクリーム販売のイベントに協力いたしました。

ロープジャンプ大会 (みんなでジャンプ in カタリナ)

12月5日(水)に保育学科学生、人間健康福祉学部学生、教職員が参加するロープジャンプ大会(みんなでジャンプ in カタリナ)が開催されました。

ロープジャンプとは、10mのロープを跳ぶ大縄跳びで、「跳んだ回数×跳んだ人数」がポイントになるチームスポーツです。

このロープジャンプ大会は、短大・大学の学生の親睦と教職員との交流を深めることを目的として、保育学科の学生が企画運営・進行等を行い、開催される恒例イベントです。

当日は、学生と教職員約140名が参加し、それぞれのチームに分かれて、競技が行われ学生と教職員の親睦が深まるイベント内容でした。



学長賞の授与

スポーツ活動・ボランティア活動・文化活動で活躍した学生及び団体に対する学長賞の授与が、12月20日(木)学内クリスマスにおいて行われました。

今年の受賞者は以下の皆さんです。(敬称略)

《スポーツ活動表彰》

【第31回全日本女子学生剣道優勝大会に出場】

松本 知子(大4)・山畑 佳代(大3)・菅 美紅(大2)・渡辺 水紀(大2)・西原 愛(大1)・鎌田 弥咲(短1)・谷内 麻里絵(短1)

【第47回松山まつり野球拳おどりに出場し、優秀賞を受賞】

ダンス部及び有志(団体表彰)

《ボランティア活動表彰》

【テーブル・フォー・ツーの取り組みにおいて途上国の支援を行うと共に、地域の清掃活動を年4回行い、地域社会に貢献】

はっぴーデザイン研究会(団体表彰)

【本学学部主催事業において参加している元気な集落づくり応援団マッチング事業の活動において農村地域の活性化に貢献】

今井 律夫(大4)・白石 沙織(大4)・武本 大輝(大4)

《文化活動表彰》

【オイスカ・インターナショナル愛媛支部企画のマレーシア植



林ボランティアに参加し、国際交流を積極的に実践】

川崎 朋枝(大3)・松本 翔太(大3)・山内 真里奈(大3)・辻田 秀(大3)・好光 郁斐(大3)・渡 圭佑(大3)・真鍋 彩里(大3)

【従来の大学祭運営のあり方について反省し、今後全学的な大学祭として、内容の改善充実をはかるために一致協力しながら取り組み大学祭を成功に導くことに貢献】

大学祭実行委員会(団体表彰)

【積極的な協力体制を作りカタリナキャンプを成功へ導くことに貢献】

カタリナキャンプ実行メンバー〈4年生〉(団体表彰)

【UD研究会:輝くシニアの元気ウエアの研究において、施設利用者のニーズの把握に努め、より良い製品開発に貢献】

有光 美咲(大3)・安藤 なつみ(大3)・岩井 恵美(大3)・楠本 優美(大3)・久保 春奈(大3)・住田 朋恵(大3)

精神保健福祉援助 実習報告会を開催



12月20日(木)、精神保健福祉援助実習報告会が開催されました。参加者は、社会福祉専攻の精神保健福祉援助実習を終えた4年生15名と実習予定の3年生9名、そして実習先の指導者や本学教員です。実習期間は3年次から4年次にかけて24日間あります。4年生は、精神医療機関や福祉施設の各現場で、精神保健福祉士の仕事や精神障害者の生活に触れた実習を経験しました。

報告会では、3グループが現場で学んだこと、気づいたことなど実習で得た学びの成果をパワーポイントや動画で発表し、活発な質疑応答が行われました。

報告会終了後は、別会場で3年生と4年生の交流会が行われました。3年生は4年生から実習体験の話やアドバイスを受け、自身のイメージを膨らませていました。

クリスマス募金のご報告 ～世界のこどもたちのために～

クリスマス募金等で集まった募金合計143,376円(クリスマス募金27,238円・大学祭募金110,138円・外部団体より6,000円)は、過酷な環境にあるこどもたちの援助に使われるよう、日本国際飢餓対策機構・日本ユニセフ協会・児童福祉献金・カタリナジャパンに送金いたしました。

クリスマス募金にご協力いただき、ありがとうございました。

次期学長・学部長・学科長の選任

学校法人聖カタリナ学園は、11月23日(金)開催の聖カタリナ学園理事会において、任期満了に伴う聖カタリナ大学及び聖カタリナ大学短期大学の次期学長に、ホビノ・サンミゲル現学長を再選いたしました。

なお、任期は平成25年4月1日から4年間です。

聖カタリナ大学人間健康福祉学部は、現学部長の坂原明教授の任期満了(平成25年3月31日)にともない、次期学部長を選出する選挙を2月8日(金)に行い、坂原明教授を再選いたしました。任期は平成25年4月1日から2年間です。

聖カタリナ大学短期大学部保育学科は、現学科長の矢野加代教授の任期満了(平成25年3月31日)にともない、次期学科長を選出する選挙を2月15日(金)に行い、日野幸子教授を次期学科長に選出いたしました。任期は平成25年4月1日から2年間です。

ESSAY

“災害に強い地域づくり”に向けて —KOBEからMATSUYAMAへ—

人間健康福祉学部 徳田 剛



2011年4月1日に聖カタリナ大学に赴任して、この3月でほぼ2年がたちました。新しく開設された人間社会学科に初めての新生を迎え入れ、授業や学科の運営について同僚の先生方と意見を交わしながら試行錯誤を重ねていたことが思い出されます。しかしそれ以上に、その20日前に起こった東日本大震災の被害の大きさ、そして福島第一原子力発電所の事故による放射能汚染の広がりがとどまるところを知らず、日本全体が騒然とした雰囲気であったことも印象として強く残っています。

私が研究職を志して神戸大学の大学院修士課程に入学したのは1995年4月。入学前の数か月間は卒業論文の審査や大学院入試などで忙殺されているはずが、同年1月17日に阪神・淡路大震災が発生し、社会学研究室の仲間たちと神戸市灘区の避難所での聞き取り調査に走り回っていました。このたび聖カタリナ大学に奉職させていただく直前にまたも未曾有の大災害が発生しました。何かの因縁を感じずにはいられません。

* * *

私の主たる研究テーマは「よそ者 (the stranger) の社会学」。都市化やグローバル化に伴って多くの見知らぬ人とともに地域生活を送ることが多い現代社会において、「いかにしてなじみのない人々とつながったり助け合ったりしていくことができるか」ということを、いくつかの具体的な地域の事例を見ながら考えてきました。それとともに、被災地域の復興や被災者の生活再建についての調査やフィールドワークに取り組んできました。

2011年5月、震災研究の成果の一つである震災障害者の問題について愛媛新聞の研究者紹介の欄に取り上げていただいたのがきっかけで、松山市内のNPOや福祉団体の方から「神戸での経験や研究成果を伝えてほしい」という依頼をいただくようになりました。一年目は阪神・淡路大震災に関するいくつかの講演やイベントに参加しましたが、2012年度には東日本大震災の被害を受けて南海・東南海地震発生時の愛媛県内の被害想定が引き上げられたこともあり、「松山で大きな災害が発生した時にはどうするか」など災害への備えに関するイベントにお声かけいただくことが増えました。2012年の10月から11月にかけて実施された松山市社会福祉協議会主催の「災害ボランティア養成講座」はその1つです (写真1)。



【写真1】災害ボランティア養成講座のようす

学内においては、聖カタリナ大学人間文化研究所の公開セミナー「ボランティアが育む新たなつながり-被災地での活動に学ぶ」を企画しました。このセミナーでは、震災以降の神戸の大学生によるボランティア活動の現状と成果をぜひ愛媛の若い人たちに見ていただきたいという思いから、ボラン

ティアコーディネーターを務める藤室玲治氏と2名の学生ボランティアを神戸大学より講師として招待しました。本セミナーでは東北や関西での学生ボランティア活動についての報告とともに、本学のボランティア団体の活動紹介もあり、会場にかけつけてくださった聖カタリナ女子高等学校の生徒からいくつかの質問が出されるなど、若者主体のフレッシュなイベントになりました (写真2)。



【写真2】人間文化研究所公開セミナーのようす

* * *

「災害に強い地域づくり」という本稿のテーマについてまず念頭に置いておきたいのは、私たちが防災や災害時の対応を考えるときにどのようなことをおのずと「想定」してしまっているか、ということです。こちらに来てから、「松山は気候もおだやかで、台風などの大きな災害も来ない。ほんとうに住みやすい街ですよ」といった表現をよくお聞きします。そのこと自体は素晴らしいのですが、実は、私が住んでいた神戸でも、あの震災の前までは同じようなことが言われていました。身近な地域のこうしたとらえ方が「自分たちの地域にはそんなに大きな災害は来ない」という感覚につながっていないでしょうか。東日本大震災の津波がそうであったように「自然災害の被害想定などあつてないようなもの。何が起ってもおかしくない」くらいの意識を持つておくことが、いざという時の適切かつ柔軟な対応を生み出します。

しかしその一方で、想定困難な、いつ来るかわからない巨大災害にいったいどう備えればよいのか、ということも事実としてあります。結局のところ、まずは今やれることからやっていくしかないわけですが、一つのヒントになるのは、阪神・淡路大震災の被災地で聞かれた「いざという時には普段から地域でやっていることしかできない」という言葉です。「普段の生活や地域社会での人々のつながりを大事にしていること」が災害発生時の適切な集団行動につながってきます。特に「要支援者」や「災害弱者」と呼ばれる人たちを地域でどう支えていくかといった課題は、災害などの非常時のみならず、普段の生活においてさまざまな社会条件にある人々が共存できる住みやすい地域づくりの課題と共通するものです。

この「災害に強い地域づくり」という課題に取り組むにあたっては、聖カタリナ大学には人間の意識や心理のメカニズムなど心理学の専門家や、地域福祉の分野で理論的・実践的に研究を進めておられる先生方が身近におられ、とても心強く感じています。社会福祉の研究を根幹としてこれまで培われた本学の教育研究の蓄積にも預かりながら、「災害に強い地域づくり」に向けて少しでも貢献できればと考えています。

ゼミナールインタビュー

人間健康福祉学部 鷹尾 雅裕 ゼミ



ゼミのテーマを教えてください。

テーマは、「社会福祉を語ろう」です。
各自が関心を抱く社会福祉の学問領域について調べて発表し、全員で自由に討論します。調べる内容は、社会福祉に関することであれば何でも良いのですが、「こころの問題」や「社会不適応」についての発表が多いように思います。

ゼミの特徴を教えてください。

実にいろいろなタイプの学生がいます。中には、学友会会長や大学祭実行委員長がいるなど、総じて優しく活動的で、よくまとまっています。また、近年の学生の特徴でしょうか、ゲームの話題も多く、そうすると教員はとてついてもついていくことが出来ません。

ゼミのスタイルを教えてください。

調べた内容は、必ずパワーポイントにまとめてプレゼンテーションします。発表は1人10分程度で、その後発表者へ質問したり、全員で討論します。1コマ(90分)を2人のゼミ生が担当します。話題が途切れたり、よそに逸れると教員が介入し、いつの間にかしゃべり続けていることもあります。

鷹尾 雅裕 ゼミは
こんなゼミ

鷹尾ゼミは、少人数ながらそれぞれタイプの違うメンバーが集まった個性的なゼミです。各自が気になった、社会福祉に関するニュースなどを調べて発表します。最近では、ニートやネット依存症などの社会問題にも目を向けた発表がありました。討論が白熱するあまりマニアックな内容になって、鷹尾先生がついて来れないこともあります。和気藹々とした仲の良いゼミで、楽しく活動しています。

社会福祉学科 3年 加藤 克幸

クラブ紹介

ういんぐず(アカペラコーラス愛好会)

私たち「ういんぐず」(アカペラコーラス愛好会)は、近年話題となっている「ハモネプ」のようなアカペラをすることを目標に、また唄うことを通じて楽しさや喜びを共有できたら良いと思い、昨年新しく設立したサークルです。現在、一



回生11名で週2回程度、和気あいあいとした雰囲気の中で活動しています。

皆さんもご存じの通りアカペラは伴奏の楽器が無いので、1人1人が自分のパートをきちんと果たさなければ成り立ちません。初心者ばかりでのスタートであるため、正確な音感を身につけたりすることなど何かと苦労することも多く、アカペラの難しさを痛感していますが、私たちらしく楽しく音楽をする気持ちを忘れず、今年からは個々のレベルを上げつつレパートリーを増やして、大学祭などで発表することができるようにしていきたいと思っています。



部長 人間健康福祉学部1年 中村 友美

就職活動レポート



Q：就職を決めた理由は？

元々、福祉の仕事に就きたいと考えていましたが、福祉の就職活動が始まる前に場に慣れるためにと一般企業の就職活動を始めました。色々な企業の説明を聞いていくなかで、「たくさんの方と関わる仕事がしたい」と考えるようになり、車の営業にとても魅力を感じました。その中で、なぜホンダ四輪販売四国を選んだかというと、父親が昔ホンダの車に乗っており、幼稚園の行き帰りや、休日にいつも乗っていたからです。今まで乗った車の中で最も乗り心地が良く、一番思いのある車です。今度は自分が営業マンになって車の良さを知ってもらい、たくさん楽しい思い出を作ってもらいたいと思い志望しました。

Q：就職活動中に苦労したこと、工夫したことは？

「積極性は誰にも負けない」という気持ちを常に抱き就職活動をしました。質疑応答の時間は初めに発言することを心がけ、誰よりも早く質問をしていました。内容は「この仕事を始めて良かった所」「失敗したこと」など簡単な内容でした。

また、説明会が数回ある場合は、2度3度と足を運び、顔を覚えていただく努力をしていました。最も苦労したことは、筆記試験でした。試験勉強に対して努力不足のため、積極性は伝わっても学力が…ということが何度ありました。計画的に勉強しておくことが大事だと思います。

Q：後輩たちへのメッセージ

就職活動をするにあたっては、最初は緊張すると思いますが、恐れず積極的に説明会に参加することが大切です。合同企業説明会ではあらかじめ、説明を聞く企業を決めておくとうれしいと思います。

また、うまくいかなくて悩むことも多いと思いますが、先生や就職課の職員の方と相談することや、同じ就職活動をしている同級生に話してみることも解決につながります。就職活動を続けることで、人事の方、代表者の方からお話を聞くことが出来たり、同じ就職活動をしている方々との交流もできます。何より、自身の成長につながる1年になると思うので、楽しむような気持ちでリラックスして就職活動をしてください！

田中 英祐

健康福祉マネジメント学科
福祉マネジメント専攻

内定先：株式会社
ホンダ四輪販売四国



Q：就職を決めた理由は？

人の温かさを強く感じたからです。就職先との出会いは、学内での合同説明会でした。私は、就職先がなかなか決まらず、周りの友人たちの内定先がだんだんと決まり始めているなか、とても焦り、悩んでいた時期がありました。そんなとき、気にかけてくださったのが成寿会の職員の方でした。受験するか分からない学生のために、わざわざ職員の方から就職課にお電話をいただいたり、施設見学時には、温かく迎え入れてくださったりと、人との出会いを大切にしているところに惹かれ就職を決めました。

Q：就職活動中に苦労したこと、工夫したことは？

1番苦労したことは、乗り物酔いです。私は、乗り物が苦手で就職活動中に県外へ出ることが多くあり、夜行バス・電車・船を活用しました。夜行バスで三夜を過ごし、0泊4日ということもありました。乗り物酔いしたまま試験やセミナーに参加したこともあり、モチベーションを維持することが大変でした。

工夫したことは、就職サイトや就職雑誌に掲載されている情報を自分の目で確かめることです。自ら肌で感じたことは、印象に残り、働くことをイメージしやすいと思います。また、施設見学などでは、他大学の学生とも会うチャンスです。そこで、就職活動をどのように進めているのか、どのような考え方や視点を持っているのかなど、様々なことを知ることができます。人の良いところだけを盗んで自分のものにしていくといいと思います。

Q：後輩たちへのメッセージ

少しの勇気があれば何でもできます。私は、些細なことや同じ質問を繰り返したり、面接では上手く質問に答えることができず「もういいです」と帰らされたり、恥ずかしい思いや悔しい思いを数多くしました。しかし、どんなことがあっても自分と向き合い、前へ進み続けた結果、内定をいただくことができました。就職課に足を運ぶこと、合同企業説明会や単独の会社説明会・会社見学に参加すること、小さなことの積み重ねが自分の力になっていきます。周りの人に感化されることなく、自分のペースで就職活動を進め、聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部の学生全員が良い就職活動や学生生活を送れるよう願っています。

八木 信幸

社会福祉学科 社会福祉専攻
内定先：社会福祉法人 成寿会



自分のペースで。自分らしく。
ぶれることなく前へ

Q：就職を決めた理由は？

私は高校時代からボランティア活動に興味を持っており友人に誘われ、あしなが学生募金活動に参加しました。実際に街頭に立って募金活動したり、チャリティーイベントにも参加しました。また、他県の人たちとの意見交換会や交流会にも積極的に参加しました。

そういつた中で誰かのために何か役に立ちたいという気持ちが、生まれてきました。

そして就職を控え、合同説明会の時に、防衛や災害復旧の最前線に立つ自衛隊の方の話を聞き、自分の気持ちに合っている仕事だと思い就職先として選ぶことになりました。

また、困っている方の生の声が一番に聞ける就職先であるとも思っています。

Q：就職活動中に苦労したこと、工夫したことは？

1番苦労したことは、数学の勉強です。

6年間のブランクがあったので苦労しましたが、図書館や自宅で猛勉強を行い無事乗り切ることができました。

それから、工夫したことは、自衛隊の組織や仕事内容について詳しく調べたことです。また、母親に面接官になってもらい模擬面接を行い、面接で想定される質問内容等を繰り返し練習しました。

面接の際は、大きな声ではきはきと答えることと、常に笑顔を保つことを心がけて面接試験に望みました。

川村 美咲

健康福祉マネジメント学科
健康スポーツマネジメント専攻
内定先：防衛省 陸上自衛隊



就活は
先手必勝なり

Q：就職を決めた理由は？

私は、中学生の頃に祖父が認知症になったことがきっかけで福祉に興味を持ち、聖力タリナ大学に入学しました。その頃から高齢者福祉分野で働きたいと考えていましたが、大学での講義や介護福祉実習を通して、より一層その思いは強くなりました。私は就職するにあたって「家庭的な雰囲気のある施設に就職したい」という考えを持ち、就職活動を行ってきました。求人情報や説明会の内容から砥部オレンジ荘に魅力を感じ、施設見学に伺いました。高齢者の方々と職員の方々が家庭的な雰囲気のなかで過ごしている様子を見て、ここで働きたいという思いが強くなり、砥部オレンジ荘への就職を決めました。

Q：就職活動中に苦労したこと、工夫したことは？

高齢者福祉施設で働きたいと考えていたので、就職課で高齢者福祉関係の求人を探しました。高齢者福祉関係の求人は多く、そのなかから自分の考える雇用条件に合う就職先を探しました。求人情報では給与や勤務時間などを把握できますが、施設の雰囲気は実際に行ってみないと分かりません。そのため、自分の考えに合う求人を見つけたら積極的に施設見学に伺うようにしました。また、学内で行われた就職活動ガイダンスやセミナーには進んで参加しました。当然ですが就職活動では施設見学の申込や応募書類の送付など、全てのことを自分で行わなければなりません。そのため、ガイダンスやセミナーで学んだ電話での対応、挨拶の仕方などの知識や常識がとても役立ちました。

Q：後輩たちへのメッセージ

私は友人が早くから就職課へ足を運んでいたりで、最初は友人についていく形で就職課に通い始めましたが、そのおかげで早め早めに行動することができ、友人にはとても感謝しています。就職活動を始めた頃は求人情報を見てもよく分からず、「何をしたらいいのかわからない」という漠然とした不安がありましたが、就職課の方々から求人の見方や書類の書き方などを丁寧に教えて頂きました。就職活動では悩んだり落ち込んだりすることも多いです。そんな時は一人で悩まず、就職課の方々、先生、友人などに相談してみてください。きっと気持ちが楽になり、また頑張ろうと思えるようになると思います。就職活動は大変ですが、皆さんが希望する施設や会社に就職できるよう応援しています。頑張ってください！

平野 陽子

社会福祉学科 介護福祉専攻
内定先：社会福祉法人 砥部寿会
特別養護老人ホーム
砥部オレンジ荘



自分の理想をしっかりと持って就職活動に臨みましょう！



Q：後輩たちへのメッセージ

まず一番は自分がやりたいう仕事を見つけてください。私の場合は担当してくださった自衛隊の方が、とても丁寧に対応してくださり、心強かったです。

相手との信頼関係を築くことも側面的には大切であると思いました。

長い就職活動の期間でするので、あまり自分を追い込まず、たまには息抜きも必要です。ONとOFFをうまく切り替えてください。

- ・無理をしないこと
- ・焦らないこと
- ・人と比べないこと

以上の3つが大切だと思います。自分自身に妥協しないで、自分で納得する就職先を決定するように最後まで頑張ってください。

悔いのない就職活動をするために...
今できること



Q：就職を決めた理由は？

私は、子どもが好きで幼稚園の先生になることが小さい頃からの夢でした。そして在学中に大学でたくさんのことを学び、遊びを通して子どもたちにたくさんのことを教え、子どもたちと共に日々成長していけるような保育者になりたいと思うようになりました。卒業後の就職先として通うのに丁度良い距離にあった和気学園のことを先生方や実習に行った友人に話を聞いたり、見学に行き元気いっぱいでのびのびと遊んでいる子どもたちや、子どもたちと思いきり遊び笑顔の絶えない先生方を見てここで働きたいと強く思いました。和気学園は三園で組織されているのでどの園に勤務することになるのかまだ分かりませんが、自分の理想の保育者を目指して頑張りたいです。

Q：就職活動中に苦労したこと、工夫したことは？

私が一番苦労したことは履歴書の作成です。履歴書は自分のことを全く知らない人たちに自分のことを知ってもらうとても重要なものです。何度も下書きをし、就職課の方々にアドバイスをいただきました。特に自分の特徴を記入する欄では、自分が園に勤めたら何ができるのか、自分にしか出来ないことは何なのかを小さい欄にまとめて書くことがとても大変でした。また就職ガイダンスやセミナーにも参加し、就職活動に必要な知識を身につけました。そして幼稚園の就職試験は、ピアノの試験がある園がほとんどです。ピアノは苦手なので1日に少しでも触れる時間を作り、保育学科の先生にご指導いただきました。

Q：後輩たちへのメッセージ

保育学科は多くのことを学び、学外実習など忙しい日々が続きます。しかし、就職ガイダンスやセミナーなどに参加して必要な知識を身につけ、早めに就職活動を始めることが大切です。どのような保育者になりたいのか、どのような園で働きたいのかを明確にすることで自分に合っている園を見つけることが出来ます。そして就職活動をする上で一番大切なことは、相談することだと思います。悩んだ時には就職課の方々や保育学科の先生方に相談すれば、とても親身に聞いてくださり良いアドバイスがいただけます。また、同じように頑張っている友人の存在は大きな支えとなります。自分は1人ではないということを忘れず、最後まで諦めず頑張ってください！

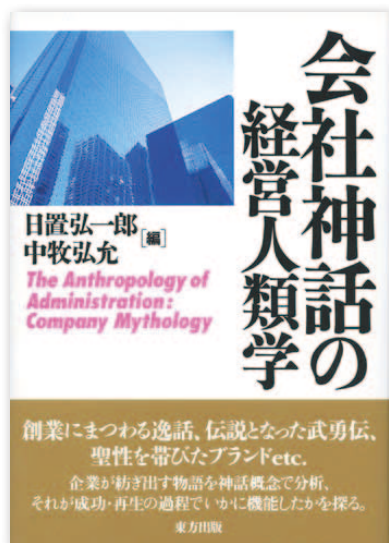
土居 愛美

保育学科
内定先：学校法人 和気学園



理想の保育者になるためのスタートラインに。

教員著書紹介



『会社神話の経営人類学』

横山 知玄(聖カタリナ大学教授 執筆担当部分: レストラン三笠会館の創業神話と会社儀礼)
:東方出版、2012年

本書は、国立民族学博物館「経営人類学研究」の研究成果で、人類学の方法・神話の概念を経営組織に適用、会社の「物語」を「会社神話」とし「制度」とはどこから来たものかその解明にある。I部「創業神話」II部「英雄神話」III部「ブランド神話」IV部「組織に潜む神話」に分けられ11人が各章を執筆。筆者の論考は第1章に「行持」と「行事」、「修行」と「修業」の対応関係をめぐってという副題を添えて収められている。

吉野杉で知られる奈良は東吉野、家督を継ぐも林業家のタブーである材木商に手を染め無一物に、谷善之丞は西国を逃れて上京、大正14年関東大震災の翌年、「三笠会館」の前身「氷みず屋」の飲食店を銀座に創業、度重なる事業の危機と絶望という難難辛苦を奇跡的に越え、やがて銀座を代表するレストランになっていく「物語」である。

創業者の生家は林業家と村長の家系、机で学んだ知識を嫌う父君によって善之丞は中学進学を断念、三学(詩、経、漢文)が真の学問という旦那寺老師の諭して3年間の泉州陰涼寺の僧堂修行、とりわけ典座(禅林でいう料理・修行のこと)の意味と真の安住の世界・家に帰って坐(あんじん)の世界(帰家穩坐)を学んでいた。後に度重なる絶望的危機になす術無く只坐っては、翌日事態が解決していくという不思議な体験を重ねた。

戦後の混乱期に社内の統制を失った善之丞は自己の体験を「講話会」として語りはじめると創作料理披露・一日店長など多くの会が開かれていき、社内の様々な行事(儀礼)となっていく。人は何のために働かなければ修業に励むのか?明日知れずこの命、修行は手段でなく修行すること自体が目的、料理修行の頂きに至ってはまた更なる頂きに向かって歩く「無窮」の思惟がこのレストランの修業に移された。創業者の体験が内外で語り継がれる内に社員に浸透、これが物語となって事業の起源と道筋を示し、この今を只ひたすら生きざる意味付与の世界となって「意図せざる結果」として銀座を代表する会社となった。

物語という会社神話は事業の起源を示し、生き方・働き方に意味を与え、事業と料理修業の指針を未来永劫に示す根源的「制度」なのである。本書は、多くの会社「神話」から、現代日本社会再生の視点が誘われる図書ともなろう。



『人間性心理学ハンドブック』

坂原 明(聖カタリナ大学教授 執筆担当部分:福祉と保育における人間性心理学)
:創元社、2012年

本書の編者となっている日本人間性心理学会とは「人間性を理解し、その回復と成長に貢献することを通じて、社会的責任を果たしうる心理学の研究と実践を推進すること」を目的に発足した学会です。本書は、同学会の創設30周年を記念して出版されました。

第I部【人間性心理学の輪郭】では、人間性心理学のアウトラインが包括的につかめるように6つの章(第1章《人間性心理学とは》、第2章《人間性心理学のアプローチ》、第3章《人間性心理学の実践領域》、第4章《人間性心理学における研究方法と倫理》、第5章《世界における人間性心理学の発展と展望》、第6章《人間性心理学の可能性》)から構成されています。そして、第II部【人間性心理学ワードマップ】では、人間性心理学の研究と実践でよく使われる114のキーワードが、分かりやすく解説されています。本書は、「幅広い裾野」と「奥深い背景」を有する人間性心理学を理解する上での第1アクセス・ポイントになる格好の図書と考えられます。



学校法人 聖カタリナ学園

聖カタリナ大学

カタリナひろば vol.25 No.2

編集・発行

広報委員会

〒799-2496 愛媛県松山市北条660番地

TEL (089) 993-0702 (代)

kouhou@catherine.ac.jp